

平成17年度岩手県工業技術研究推進会議  
議事録

(実施日)

平成17年10月20日(木)

(テーマ名) 生分解性プラスチックの適正使用のための分解菌データベース作成 (事後評価)

委員	質問・意見	回答
A委員	何故、この事業を食品技術部で行ったか？	<p>[発表者] この事業のポイントは「微生物」。当所では微生物関係の技術を食品技術部が保有し、事業の推進に適していたため。</p> <p>[所長] 事業開始の際、当事業は応用生物部が進めていたが、組織改変で(食品開発部と併合され)食品技術部として実施してきた経緯がある。</p>
F委員	岩手に特徴的な微生物は発見されたか？	<p>[発表者] 事業主体の産総研では、各地土壌に存在する生分解性プラスチック分解微生物についての同定試験も行っていたが、現在のところ、岩手、東北に特徴的なものは見つかっていない。</p>
H委員	採取場所と数は？	<p>[発表者] 岩手県が担当した採取地点は、畑地(岩手)、試験場敷地内(宮城)、および水田(秋田)の3ヶ所である。</p>
	(土壌サンプルの)数が少ないのでは？	<p>[発表者] 土壌における採取地点等は全体計画に従ったものであるが、前回の推進会議でも同様の指摘があったため、水域を対象とした検討の際にはサンプリング数を多く設定するなど考慮した。</p>
D委員	得られたデータはどのように活用するのか？	<p>[発表者] 当所では、生分解性プラスチックを活用した環境対応資材などの開発も進められており、当事業で取得された知見、分解性予測手法などを開発時の情報として参考にできるものと考えている。</p>
A委員	国内での分解速度の差は？	<p>[発表者] 生分解性プラスチックの種類により、様々であるため一概には言えない。しかし、分解性は温度による影響を受けるため、寒冷地は若干遅い傾向があるようである。</p>
	事業としては「分解システム」を構築する方向か？	<p>[発表者] 当事業においては、生分解性プラスチックの「分解システム」を構築することが目的ではないため、ご質問の方向性とは異なる。</p>
F委員	寒冷地向けの微生物を選抜する目的はあったのか？	<p>[発表者] 事業の進展次第では有用な微生物のピックアップも可能であったかと思うが、特に、寒冷地に適した微生物を選択するという目的は当事業に於いてはなかった。</p>
D委員	地域の農業振興との結びつきがほしい。データは良いと思う。	<p>[発表者] 今後の参考にさせて頂く。</p>